

南小国町共有ビジョン（素案）に対するパブリックコメントへの回答

番号	意見内容	回答案
1	<p>「未来の年表」、「未来の年表2」（いずれも河合 雅司著）という本があるが、人口減少を迎えた日本の未来の姿がリアルに描かれており、すぐにでも何らかの対策を講じる必要があると感じた。</p> <p>30年後のビジョンを考えるにあたっては、少子高齢化とそれに伴う人口減少により引き起こされる様々な事態に対応できるものとすべきであり、そのような視点も取り入れた方が良いのではないかと？</p>	<p>人との繋がりの希薄化については、「よ」における「人と人とのつながり」で表現しております。また、経済面「と」における「ともに連携し」でも対応しております。</p> <p>いただきましたご意見は、今後ビジョンを具体的な取り組みに落とし込む作業において参考とさせていただきます。</p>
2	<p>南小国町の基礎景観と観光を引き継ぐ以外、今より盛大で作りしてほしいです。黒川温泉を基礎に、湯布院を目指し、九州の有名観光スポットとなるなら、人口増加も可能でしょう。自然と温泉は南小国町の30年後に重要なものです。</p>	<p>自然と温泉は、「き」における里山の景観等で表現しております。</p> <p>いただきましたご意見は、今後ビジョンを具体的な取り組みに落とし込む作業において参考とさせていただきます。</p>
3	<p>あまり「きよらのさと」という言葉に固執しなくても良いのではないだろうか？「ライフラインを充実させ」などは少し無理があるようにも思う。現状でもライフラインは十分充実していると思うので。</p>	<p>「きよらのさと」という表現は、町民に長年親しまれている言葉であり、全体にわかりやすくすることを目的に使用しました。</p> <p>ライフラインには、医療、物流、食料、交通、情報通信、電気、水、インフラ、道路、公共交通機関、介護、防災、ガスなど広範な対象を含むと解しておりますが、ご意見のとおり分かりにくい部分がありますので、ビジョンの説明を行う際には考慮させていただきます。</p>
4	<p>今まで築き上げてこられた方々の環境や伝統を受け継いでいくことが我々の第一の使命と考える。また、新たな景観作りにも率先していきたい。</p>	<p>環境や伝統の承継については、「き」の「里山の景観」に盛り込まれていると認識しております。</p> <p>新しい景観づくりについてもご意見のとおり今後必要になると思われますので、具体策を検討する段階で参考にさせていただきます。</p>
5	<p>目指すべき姿が多すぎて、どういう町作りをしたいのかが伝わってこない。もっとテーマをしぼって、目標は簡潔にすべきと思った。見た感じ「自然」と「暮らし」に分けられると思うので、その中でできること、実現すべきことをまとめて、未来像を作らないと、将来性が感じられない。少子化、人口減少の中で「人づくり」というものは大切になってくると思うので、もっと具体的にどのような環境で、どのようなことが身に付けられるか、明確にする必要があると思う。</p>	<p>共有ビジョンの性質上、広範囲の対象を含んでおり、分かりにくさにつながったのではないかと考えております。今後、具体的な計画、個別の事業に落とし込む段階においては、現状と課題を検証したうえで、より具体化・明確化してまいりますので、いただきましたご意見はその際に参考とさせていただきます。</p>

番号	意見内容	回答案
6	<p>ごみ拾いや町の清掃など、皆で日にちを決めて取り組み、人と人との絆や町の美化にも目を向けて南小国町全体で2050年の景観を守ればと思います。そうすることで、町の生物や自然も守れると思う。一つのことだけでなく、全体的な活動をすれば、町の一部だけでなく全てが良くなると思う。</p>	<p>「き」における「里山の景観を次世代に引き継ぐ」の具体的な取り組みとして、継続的に実施していきます。</p>
7	<p>Free Wi-fi が使える場所が増えたらいいと思う。外国人観光客も年々増えているし、小さい子供もスマホやタブレットで遊ぶ姿を見る。パソコンで仕事をするときも場所を選ばずに作業できれば効率も上がるので、Wi-fiが必要だと思います。</p>	<p>「の」における「夢に向かって挑戦できる」と「と」における「世界とつながり」に関係している御殿案と思われます。具体的なご提案ですので、今後具体化の検討段階において参考とさせていただきます。 なお、フリーWifiについては、現在町で整備を進めております。</p>
8	<p>だれもが笑顔で安心して過ごせる里での目指すべき姿に超高齢化が進み、若い人や子供連れが都会へ出て行くのも、医療機関への心配があるからではないか？（転居する人も不安があるのでは…）特に小児科の専門医（医師が交代ではなく専従で）。地域全体の協力が必要だと思う！！</p>	<p>「よ」における「寄り添い支えあい」、「ら」における「ライフラインの充実」で表現されていると認識しております。 「よ」の項目については、福祉を主体に考えておりましたが、事業として具体化するにあたっては医療の充実も含めるべきであると考えております。</p>
9	<p>私は嫁に来た時、この大草原の中で阿蘇山、九重連山をバックにして農作業ができることは、毎日毎日がワクワクでした。いつも遊行しているみたいでした。四季折々の春は山菜採り、夏は大根、秋は紅葉狩り、冬は草山。荒れた土地にマリーゴールド、実のなる木、ブルーベリーと観光園をつくり、ブルーベリー収穫体験、ジャム作り、日本ミツバチを育て、ハチミツとり、これを加工した食品を作り、景観を汚さずに、のどかで、癒される町づくり。</p>	<p>「き」における「里山の景観」に含まれていると認識しております。 今後ビジョンを具体的な取り組みへの落とし込みにおいて参考とさせていただきます。</p>
10	<p>今のままで人口減少が加速していくと思います。企業誘致又地域の特色を生かした産業等、若者が地元で生活できるような環境づくりが大事だと思います。日本国内でも人口増加に成功した市町村もあると思います。先進地視察もいいと思います。</p>	<p>「と」における「共に連携し、世界とつながり」で表現しているとの認識です。 産業の発展は町の発展に不可欠ですので、具体的施策の立案において参考とさせていただきます。</p>

番号	意見内容	回答案
11	公共交通について何も記載がないが、住民生活においても観光客にとっても重要ではないだろうか？ 自家用車がないと生活できないというのでは真に豊かな町とは言えないのではないか。	「ら」における「ライフラインを充実させ」で表現していると認識しております。ライフラインという言葉から通常想起するものより。広い意味を含んでいることから、医療、物流、食料、交通、情報通信、電気、水、インフラ、道路、公共交通機関、介護、防災、ガスなど、多少分かりにくかったと思われる。今後は付加的に説明することとします。
12	2050年には町の人口も2,000人を割るのではないのでしょうか。でも今高齢といわれる方々も少なくなり、日本国、南小国町の負担も少なくなり、また違った秩序が生まれるのではないのでしょうか。まず、町が力をつけることだと思います。私たちが生きてきた平成30年とこれからの30年はまったく違うでしょう。 私達は商売をしていますので、いつも5年後10年後はどうなるかと考えて生活してまいりました。若い方々がこの町に残りたいと思える町にしてください。年間何十万人が来る私たちの地域を南小国町で生かしませんか？	「き」における「生業を次世代に引き継ぐ」で表現していると認識です。 「残りたい」だけでなく「戻りたい」と思われるように具体的な施策において、参考とさせていただきます。
13	商業施設を増やしてみてもどうかと思います。賃貸物件を探しやすくすると、移住したい方にわかりやすいかと思います。	住みやすい町であるためには、産業の振興が不可欠であると考えております。今後具体的な取り組みを行っていく際に参考にさせていただきます。
14	町民だけでなく、観光客も交わる集いの場を増やす。例えば黒川温泉に。温泉を利用した農業ハウスを運営する。イチゴ、アスパラ、など。地域の方だけでなく、地域以外の方でも体験できるような。 観光客だけでなく、地域（南小国町）の人も地域外の人にも笑いあふれる楽しい施設。温泉あり、農業あり、地物レストランあり、若い方も高齢者も交わる何か。	共有ビジョン全体と符合する考え方であると考えます。外部から憧れられるような町を目指し、今後具体的な施策を立案するにあたり参考とさせていただきます。
15	「人と人のつながりを大切にし」、「地域全体で協力し」、「ともに連携し」と同じような趣旨のことが3回出てくる。（くらし・幸福度・つながり）の項目だけでも良いのでは？ 地域の絆を尊重したいのはわかるが、あまりに強調しすぎると。外部に対して閉じている印象を受ける。外部との繋がりも重視しているというメッセージも重要ではないか？ その意味で（ローカル・グローバル）の部分の記載を工夫したほうが良い。	「よ」における「人と人とのつながり」は文字通り人間と人間ですが、「と」における「共に連携し」は「人と人」だけのことではなく、「地域」「産業」、外部とのつながりを含んでいます。「地域全体で協力」は、災害時における助け合いに代表されるような共助の意味合いが強いものとなっており、それぞれ違った意味で用いています。 もちろん外部とのつながりも重視しており、その点は「と」の項目の「世界とつながり」の部分で表現しております。

番号	意見内容	回答案
16	<p>福岡県糟屋郡粕屋町にも住居があり、毎週行き来している。親の介護のため、5年ほど前から週の半分は黒川で生活。黒川に帰るようになって、改めて南小国町の生活の良さを感じています。粕屋町は県で最も人口が増加していると聞いていますが、騒々しくなっています。</p> <p>南小国町と粕屋町とで友好関係を作り、家族や学生などを定期的に田舎生活を経験していただく。そうすればアレルギーや病気の改善（水、空気がおいしい、ストレス少ない）、不登校の対策にもなる。田舎は町ほどお金を使わない、温泉が多いなどアピールできる点は多い。</p> <p>学校の対応、できる仕事、使える畑、使える住居、どのようにお世話をするか、私も関わればと考えています。</p>	<p>外部とのつながりは、「と」の項目で表現しております。いただいたご意見は、今後施策を具体化する段階で参考とさせていただきます。</p>
17	<p>空家が多くなり、利用するようになるとか、都会から来るとか、農家する（自分で野菜を）作ると、畑・田んぼしてニワトリを養ったり、色々楽しいことがあると思います。</p> <p>小国には歯医者がないので、早く見つけてください。</p> <p>南小国町は野菜とかおいしいので（米も）PRしてください。</p>	<p>いただいたご意見は、今後施策を具体化する段階で参考とさせていただきます。</p> <p>歯医者をご不便をおかけしておりますが、近々赴任予定です。</p>
18	<p>美しい自然の中で暮らしている私達、それでも若い人達が働く場所が限られている上に住居代も町に住む者より割高、又、親が働いている子供達の夏休み、冬休み（小学校4・5・6年生）を預ける所がないと耳にした。もう少し若い人達が安心して働ける環境にしてもらえたら……。</p> <p>本来、今住んでいる人も、この町が好きなので、これからもこの事は大きな課題になるのでは？</p>	<p>いただいたご意見は、今後施策を具体化するにあたり、課題として参考とさせていただきます。</p>
19	<p>他の町から観光業で働く人達が高齢化しても、働けなくなっても、南小国町で安心して一生暮らしていける町を作ってもらいたい。</p> <p>車の運転が無理になっても暮らせる町（バス、安いタクシー）。</p>	<p>交通の問題は「ら」の項目のライフラインで表現しております。車がなくても生活できる町を目指し、具体的施策に盛り込んで参ります。</p>
20	<p>人口減少、超高齢化という課題は、おそらく国ベースで動かないと解決できない。まずは、1日でも2日でも短期的に滞在してくれる人々が多くなるように、町としてブランド化することが必要。例えば、瀬戸内海の直島のように。</p> <p>また、個人的に必要なと思うのは、次世代への引き継ぎが実際難しくなった場合のパターンを考慮すべき。</p> <p>そして、プランが決まれば、すぐ実行し、継続できる仕組みが必要。</p>	<p>今回の共有ビジョンの策定とその実行が町としてのブランド化につながり、まちづくりにつながるものと考えております。</p>